

Amir Tsarfati 氏 中東情勢アップデート 2017年 12月 16日公開

.....
では、お祈りをして始めましょう。お伝えしたいことがたくさんあります。物凄い週でしたからね。では、お祈りしましょう。

お父様、ただあなたが主であられることに、心から感謝します。

数分前に、ユダヤ教のラビの、ハヌカの明かりを灯しながら祈る声が、ホテルの外から聞こえて来ました。何と素晴らしいことでしょう。

2200年以上も前に、あなたがユダヤ人を守られ、私たちは今もそれを覚え、それを讃えて、記念して祝っています。

お父様。あなたは、昨日も今日も永遠に同じです。

あなたがイスラエルを守られ、あなたは決して眠らず、まどろむこともありません。

お父様。私自身、ユダの子孫として、ユダヤ人として、私の家族の中の、初めてここイスラエルの地、エルサレムで生まれた世代として、あなたの御言葉と約束への真実さに、ただ畏敬の念に立ち尽くします。

また、お父様、その同じ真実が近い将来、あなたが約束してくださったとおり、あなたが花嫁を迎えに来られ、連れて行かれる時に再び表明されます。そのことをあなたに感謝し、あなたを祝福します。

これから行うアップデートでも、どうかあなたのご臨在してくださり、今の時代と季節を明確に理解できるようにしてください。

私たちがあなたの御言葉の美しい御業を見るように、私たちの目と霊を開いてください。

イエスの御名によって祈ります。

アーメン。

アーメン！皆さんに神の祝福がありますように。

エルサレムよりこんばんは。エルサレムは今、とても活気づいています。何千、何万という人が街の通りに出て、ハヌカの祭りを祝っています。神がイスラエルを守ってくださった、奇跡に関する祭りです。

神は、この地の侵略者を追い出してくださっただけでなく、ここの、汚された神殿を、私たちが再献納することを許してくださったのです。

「神殿の丘には、ユダヤ人の神殿などこれまで一度も存在したことがない」

と世界が説き伏せようとしている中で、我々はこの2200年の間ずっと祝ってきた、神殿に関する祭りを祝っているのですから、面白いですね。これは、イエスの時代でさえ、当時「宮清めの祭り」(ヨハネ 10:22)

と呼んで既に祝われていたのですから。彼らの言い分は、全く滅茶苦茶です。私はいつも思うのですが、イエスは私たちを世の光だと言われ、献納に関しては、私たちは、ローマ書12章が告げているとおり、生きた供え物として、自分自身を主に捧げなければなりません。私は、先日フェイスブックでハヌカについて書きましたが、その時用いたローマ書12章には、次のように記されています。

- 1 そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。
- 2 この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。

(ローマ人への手紙 12:1~2)

ハレルヤ!

確かに、マタイ 5:14~16にある通り、私たちは世の光です。しかし、私たちは、自分のからだを聖い、生きた供え物として捧げなければなりません。ハヌカは、私たち全員へのメッセージでもあるのです。神が真実であられるのと同様に、神は私たちも真実である事を望んでおられます。

もう一つ、皆さんにお伝えしたいのは、エルサレムは観光客でいっぱい、エルサレムは喜びに満ち溢れています。そして、トランプの宣言が、中東に火の海をもたらさなかったことで、敵は発狂しているのです。彼らは、

『エルサレムがイスラエルの首都である』と宣言すれば、中東は火の海になる」

とか、

「世界中で人々が大量虐殺される」

とか言って、これまでずっと脅して来たのです。

皆さん、これは敵の策略ですよ。敵は、あなたが常に恐れていることを狙っているのです。言っておきますが、70年前、ジョージ・マーシャルは全く同じことを、ハリー・トルーマンに言ったのです。

「ユダヤ人国家宣言をしてはいけない。」

「ユダヤ人国を、独立国家として認識してはいけない。」

「そんなことをすれば、アラブ人たちは発狂して戦争になる。」

ところがどうでしょう。

トルーマンは「イスラエルは独立国家である」と認識しました。もちろん、戦争はありましたよ。そして、誰が勝ったでしょう？未だにここにいるのは、誰でしょう？誰が負けたと思いますか？未だに、エルサレムを自分たちの手に入れようと頑張っているのは、誰でしょう？未だに、ここは自分たちの地だとか、現実を否定して生きているのは、誰でしょう？イスラエルの事となると世界が物凄く偽善的になるので、驚きます。世は、エルサレムの権利を他方に渡せ、とイスラエルに要求しますが、当の他方は、我々のエルサレムに対する権利を認めないのです。つまり彼らは、我々に対して彼らがしない事を、我々に対しては行えと要求してきます。このように、全くインチキ、全くデタラメです。ところが、現実の面白いところは、非常に多くの人による不吉な予測に反して、ドナルド・トランプ大統領が「エルサレムは首都である」と宣言しましたが、その後何が起こったかご存知ですか？アラブ人はすぐさま、東エルサレムがパレスチナの首都であると宣言しました。これは何か？というと、つまり、無意識のうちに、エルサレムの一部はイスラエルのものである、と認めているのです。イスラエルは初めて、エルサレムに関して何らかの権利を得たのです。彼らは、無意識のうちにそれを認めたのです。

もう一つ、皆さんに説明しますと、ある特定の地域の歴史的な権利を主張しながら、それ以前に起こった事を全て無視するというのは、彼らが都合の良いことだけを聞き入れているということで、彼らの歴史の理解に、物凄い問題があるということです。皆さん、理解しなければなりません。歴史は、岩のドームが建てられた691年に始まったものではありません。歴史は、それよりはるか以前から存在します。4000年前、アブラハムは神殿の丘に導かれ、イサクが一緒でした。もちろん、ムスリムたちはそれをイシュマエルに変えましたが。しかし、あの山で捧げられそうになったのは、イサクです。そしてイサクが、父であるアブラハムに

「羊はどこですか？」

と聞いたとき、

8 アブラハムは答えた。「イサク。神ご自身が全焼のいけにえの羊を備えてくださるのだ。」

(創世記 22:8a)

そして、どうなったでしょう？その日、羊は備えられ、2000年後、小羊が備えられました。神の小羊イエス・キリストが、私たち全員のために捧げられたのです。聖書は、彼が過ぎ越しの小羊だと告げています。

このように、アブラハムの時代、確実にムスリムはいませんでした。

ダビデの時代、そこがユダヤ人たちの首都となりました。

イエスの時代、そこはユダヤ人の首都でした。

イエスはユダヤ人としてそこを訪れ、ハヌカも含めて、ユダヤの祭りを祝ったのです。当時、それは「宮清めの祭り」と呼ばれていました。そしてもちろん、7世紀にイスラムが登場して、世界のこの地域を占拠、エルサレムも占拠されました。そして、彼らは岩のドームを建てました。

ところで、トランプが宣言の中で言ったのはこうです。

「エルサレムはイスラエルの首都だと我々は認識しているが、だからといって、現在の聖地に関しては、何も変わらない。

嘆きの壁はユダヤ人が訪れ、

アル=アクサ・モスクはムスリムが訪れ、

園の墓、聖墳墓教会はクリスチャンが訪れる。

何も変わらない。ただ、ずっと以前に認識されるべきであったことを、ようやく認識する。それだけだ。つまり、エルサレムがイスラエルの首都である、ということだ。」

それだけです。とてもシンプルな事なのです。

次に、今週はとても興味深い週でした。まず、私がゴラン高原でアップデートをしたまさにその日(2017年12月11日)、中東では物凄く大きな事が起こりました。私が「大きな事」と言う時は、本当に大きな事です。

ヴラディミール・プーチン大統領が予告なしに、シリア国内にいる自国の兵士、自国の軍を訪問しました。そこで彼が行なったことがとても興味深いのですが、日曜日に、ダマスカスにあるバッシヤール・アサドの宮殿にメッセージが届けられました。そこは、反政府軍から8kmの距離です。そのメッセージ

とは、

「この日、プーチンが到着する」

というもので、バッシャール・アサドは驚愕すると同時に、感動して大喜びしたのです。面白いことに、プーチンはこれまで一度もダマスカスを訪れたことがなく、そこで、アサドは思ったのです。

「彼が私を尋ねて、私の国の首都に来てくれるとは、凄いじゃないか！」

ところが、面白いのは…、彼は、

「プーチンが自分の宮殿を訪れる。これで自分の孤立も終わる。私が無事だということを、世界中が目撃するのだ。」

と考えたのです。

しかし、彼が知らなかったのは、プーチンには、彼の事も、彼の宮殿も訪れる気などサラサラなく、実際にはプーチンは、フメイミムという所にある、ロシアの空軍基地に向かっていたのです。面白いのが、ここは地中海沿岸に位置した、厳重に警備された場所で、ロシアは、シリアの大統領にこう言いました。

「我々が、ロシアのヘリコプターで、そちらの宮殿まで迎えに行き、ここに連れて来るから、ここでプーチンと会うように。」

誰も彼に相談するのではなく、伺うのでもなく、彼は命令を受けたのです。

「我々の送るヘリコプターに乗り、沿岸の空軍基地に来い。」と。

そして、アサドは言いました。

「まあ、そうしよう。軍司令官全員を連れて、そこへ行こう。我々があそこに行けば、素晴らしい勝利写真のチャンスじゃないか。」

すると、次なる屈辱で、彼は

「誰も伴わず、一人で来い。」

と告げられました。そこで、彼はたった一人で行くと、ヴラディミール・プーチンはまるで自分が主人で、アサドが客人であるかのように扱いました。シリア国内において、ヴラディミール・プーチンが主人で、シリアの大統領が客人です。そして、ヴラディミール・プーチンが演説するために、演説台に向かって歩いている時の出来事がすごいのです。その時の様子をご覧ください。そうすれば、よく分かるでしょう。これをご覧ください。

(動画を観ながら)

見てください。バッシャール・アサドはそこにはおらず、彼は近づこうとして、ロシア兵によって止められました。ヴラディミール・プーチンの側に近づく事を許されなかったのです。もう一度見てみましょう。プーチンがそこにいる、向こうのアサドが近づこうとして、ロシアの高官に止められ、「ここにいなさい。」と言われているのです。そして、プーチンは勝者として、たった一人で演説を行いました。信じられない事です。

皆さん、何と云えば良いでしょう。

ロシアがシリアを支配しています。

ロシアの大統領が主人のように振る舞い、シリアの大統領が客です。

そして、四つ目の屈辱が襲いました。

そこにいるプーチンが、アサドには事前に相談もなく、報告もなしに、全世界に向けてこう言ったのです。

「私は、兵士全員をシリアから撤退させ、全員家に帰らせる。母なるロシアが、両手を広げて彼らを待っているのだ。」

つい先日、プーチンは来年3月18日に行われる次期大統領選挙に出馬する、と宣言したのを覚えていますか？彼の選挙運動の一部は…彼は明らかに、非常に多くの兵士を失いましたから。それも、将官レベルの上級兵士、彼の友人です。プーチンは、自分はあたかも戦争に勝利したかのように見せかけなければならない事を理解しています。自分はあの地域の主であり、そして、彼が兵士たちを連れて帰るのだ、と。言っておきますが、プーチンが撤退すると言うのは、これが初めてではありません。2年程前も彼は「撤退する」と言っています。実際に彼は、数機の航空機が飛び立つ写真を公開しました。しかし、皆さんをご存知ないのは、カメラのスイッチがオフになった瞬間に、これらの航空機はリターンをして、また着陸したのです。そして、一回目の撤退以来、彼はシリア駐留を三倍に増やしました。今回は、ロシアは多数の死者を出したため、兵士たちを撤退させなければならない、とプーチンは理解しています。そこで、彼は何をしているのかというと、“不必要な兵士たち”を避難させ、そして、全地域の利益を確保しているのです。よく聞いてください。沿岸周辺や、石油やガス生産地域など、彼は自分の利益を確保するために、そこにいるのです。皆さん、ロシアはシリアを撤退しません。ロシアは故郷のロシア人たちに、その立場を変えているように見せかけているのです。彼が、人々を連れて帰る、兵士たちを連れて帰る、彼は私たちの息子を家に連れ戻してくれる、と。彼は、選挙に勝つために何かしなければならないのです。たった今、四日前の映像をご覧いただいた通り、彼は今、シリアの真の地主です。ロシアはシリアを支配しているのです。それだけです。

興味深いことに、彼は今、エジプトに向かっていて、それからトルコに向かいます。トルコで、ヴラディミール・プーチンはトランプのエルサレム宣言に敵対します。しかし同時に、皆さんが理解しなければならないのは、彼は

「それは、地域の平和の助けのためにならない」

と言いましたが、心の中ではあの地域に平和などないことを、彼も理解しています。大きな戦争を除いては、現在の状況よりもさらに悪くなりようがないのです。しかし、今の時期に彼が戦争を起こせるとは、私は思いません。私の予測ですが、3月18日の選挙の後には、大統領としての時間がまだまだ何年もあると考え、ヴラディミール・プーチンははるかに強くなるでしょう。それまでは、彼はシリア問題に平和的解決を提供しているように見せなければならないのです。非常に面白いですね。

しかし、その間にも今はアラブ・ムスリム界にとって、イスラエルを攻めるのにエルサレムを利用する以上に都合の良い事はないのです。しかし、彼らは全然上手く行っていません。サウジは物凄く静かで、エジプトも非常に静かです。ヨルダンの王は、何となく不満を表明しましたが、それは内側にある彼自身の問題の為で、同時にサウジが警告しました。

「もし、我々の支援金が必要なら、トルコやイランの味方に付かない方が良い。ここでおとなしくしていることだ。」

そして、面白いことに、…何と言うか…サウジアラビアから最も多くの資金を受け取っているパレスチナ大統領のアッバスは、この宣言に最も激怒している人物ですが、彼は大変な間違いを犯しました。彼は相手選びを間違っ、はるばるイスタンブールまで行き、トルコ大統領のすぐ横に立ち、彼の味方に付いたのです。サウジはそれが不満です。現在、トルコとイランは親友です。という事は、イランの友

は、誰でもサウジアラビアの敵になるのです。エルドアンがサウジを「スンニ派イスラムの母」と言う立場から追い出そうとしていることは言うまでもなく、彼はスルタン、最終的にはカリフとしての役割を狙っているのですから。このように、中東では興味深い力関係が起こっていて、現在はバラバラです。

だからトランプが、エルサレムはイスラエルの首都であると発表するのに、これ以上のタイミングはないのです。あれは絶妙のタイミングで、実に聡明な動きでした。ムスリムたちがアメリカ国旗を燃やしている、二枚の写真が私の所に送られてきましたが、一枚はトランプによるエルサレム宣言の前、もう一枚はその後。どちらも同じです。彼らは決して、あなたがたのことを好きにならないし、これまでも一度も好きであったことはない。イスラエルを守ろうとする者は誰でも、直ちにイスラム原理主義の苦々しい敵になるのです。物凄く興味深いことに、現在ユダヤ、サマリヤ、ガザ地区のハマスが、イラン、ヒズボラと完全に手を組んでいて、両方から命令を受けて、イスラエルをロケットで砲弾し始めています。それが、あまりうまく行っていないのです。ガザからはほぼ毎晩のように1、2発のロケットが飛んできますが、ガザから飛んで来たロケットの少なくとも2発が、ガザに落ちて、パレスチナ人の家を破壊しています。想像できますか？ガザから飛んで来るパレスチナのロケットが、ガザに落ちて、ハマス支援者の家を破壊しているのです。信じられません。これで足りなければ、彼らは人々に路上に出るように扇動していますが、3,000~4,000人の他は、姿も見せませんでした。それだけです。今回は、何かが大きく違うのです。彼らは必死にやるのですが、ただ上手く行かない。これまでのようには行かないのです。と言っても、問題がないわけではありません。問題は常にあります。イスラエルとパレスチナの間には、物凄い愛と平和がある、なんて、私が報告したことがありますか？もちろんありません。ただ、もう一つ、問題の理由が増えたに過ぎません。それがエルサレム問題です。

次に面白いことに、ムスリムたちが、このエルサレム騒動を利用して、ユダヤ人だけでなく、クリスチャンをも苦しめようとしています。ナザレの市長はイスラム教徒です。ナザレにはもう既に、クリスチャンは大勢はいませんから。そこで彼は言ったのです。

「自分はイスラムを支持していることを表明し、トランプの行いに対する自分の怒りを示すために、ナザレ市内のあらゆるクリスマスイベントを中止する。」

想像できますか？ナザレのクリスマスイベントを中止して、辛いのは誰ですか？ユダヤ人ですか？もちろん違います。クリスチャンたちを苦しめているのです。そしてまさに、そこがポイントです。

「我々はユダヤ人同様に、クリスチャンのことも出来る限り苦しめよう。」

以上が状況です。

数日前、ムスリムの指導者たちが、イスタンブールに集合しました。狂ったスルタン、エルドアンの招待です。そこで興味深いのは、サウジアラビアとエジプトは、代表として高い地位の者を誰も送らず、低い地位の者を送ったのです。それによって、このサーカスが無意味なものになったのは、もちろんです。当然、これはムスリム社会によるいつものありきたり、ムスリムの一致を誇示するための偽物ショーですが、その翌日、トルコはトルコ大使館を東エルサレムに開設する、と発表しました。それによって、東エルサレムがパレスチナの首都であると宣言するためです。もちろん、開設はされませんがね。イスラエルがそんなことを認めません。ただ、私が言いたいのは、トルコがこの機会に飛びついて、注

目をイスラエルからエルサレムに向け、他の場所で起こっているムスリム界の全問題を隠蔽しようとしているのです。シリア、イラン、サウジ、イエメン等、全てです。とても興味深いのが、エルドアン大統領がこれらの有害な演説をいくつも行なっていて、彼は、ある演説の中で、イスラエル、エルサレムに関して、物凄いことを言ったのです。よく聞いてください。

「誰であれ、エルサレムが自分のものだと思う者はよく知っておけ。明日は、彼らは木の後ろに隠れる事も出来なくなるだろう。」

イスラムや、イスラムの歴史を理解していなければ、この文章を深刻に受け止めないでしょうが、しかし、イスラムを理解する人なら分かるでしょう。ハディースというのは伝承のコーランで、それと記述コーランがあります。伝承とは、世代から世代へ伝承されたもので、ハディースと呼ばれますが、その中に次のような文章があります。

「お前たちが、彼らと戦い殺さない限り、裁きの日は来ない。ユダヤ人たちが岩や木々の後ろに隠れても、岩や木々が全ムスリムに叫ぶだろう。『ムスリムたちよ、アッラーのしもべ。ユダヤ人が私の後ろにいる。来て、殺せ。』」

別の言い方をすれば、エルドアンが

「彼らは木の後ろに隠れることも出来なくなる」

と言ったのは、この箇所を引用していたのです。

「彼らを殺そう！」

「木々が『来て、ユダヤ人を殺せ』と言う。」

クリスチャンが、この男を反キリストだと考えることが、私にはまったく理解できません。反キリストは、ユダヤ人を嫌悪する者ではありえないのです。彼は、偽の顔をして現れるのです。反キリストは、平和をもたらす者のように見せかけるのです。彼はユダヤ人をなだめるのです。彼は、ユダヤ人に神殿を建てさせるのです。それから、平和協定を破るのです。そして、彼は自分を神として拝むように命じるのです。エルドアンは反ユダヤ主義で、ユダヤ人を嫌悪しており、物凄く低レベルのイスラム指導者です。言っておきますが、イスラエルとトルコは国交断絶寸前です。恐らくイスラエルとトルコの間には、今後一切関わりがなくなるでしょう。皆さん、エゼキエル 38 章が更に近づいています。トルコは、我々に攻めて来る側ですから、我々の味方ではあり得ないのです。彼の発言と、それに対する我々の反応は、とても興味深いです。

皆さんがさらに理解しておくべきなのは、この興味深い週の中に、ネタニヤフがベルギーを訪問しました。それから、フランスも訪ねました。そして、ヨーロッパ人にはっきりと言ったのです。

「あなたがたがエルサレムについて何を言おうと勝手だが、そこが我々の首都であると言う事実を、否定することは出来ない。パリがフランスの首都であると同様、ブリュッセルがベルギーの首都であると同様、エルサレムはイスラエルの首都だ。皆さんが認めようと認めまいと、それはあなたがたの問題であって、我々の問題ではない。我々は、独立国家として 70 年間、そこを首都として来た。また、過去 3000 年はユダヤ人国家の首都であり、それは今後も変わらない。」

パレスチナの大統領アッバスは、ある国連安保理決議を可決させようとしている、との噂で、アメリカ大統領による、エルサレムはイスラエルの首都であるという宣言を取り消す決議です。問題は、アメリ

力が拒否権を持っているため、アメリカがその決断を拒否すれば、決断されません。現在アッバスは、どうにかして国連安保理の古い規定を、土の中から掘り起こそうとしています。その規定とは、国連安保理が対処している問題に、理事国の一つが関わっている場合、その国は投票出来ない、というものです。つまり、アメリカが投票しないなら、アメリカは拒否権を行使しない。そうすれば、決議が可決される、ということです。これは、基本的には、パレスチナがアメリカに対して、

「我々はもう、あなたのことを味方とは見ていない。」

と言っているのです。ペンス米副大統領が数日中にイスラエルに到着しますが、嘆きの壁訪問が計画されています。面白いと思いませんか？トランプ大統領は、アメリカの現役大統領として初めて、嘆きの壁を訪れました。ペンス副大統領も、全く同様の事を行います。アメリカ史上初めて、現役副大統領が嘆きの壁を訪れます。これはエルサレムに関するトランプの決断を、どうにかして覆そうとしている世界にとっては、大打撃です。しかし、パレスチナは彼には会わない、会談を行わないと言っています。想像できますか？文字通り、アメリカに養われている集団が、毎年3億ドルを受け取っている人間たちが、アメリカに背いて、

「あなたのことなど、必要ない。我々はあなたがたが嫌いだ。」

「我々は、あなたがたには協力しない」

と言っています。この事から、パレスチナ人は、自分たちの思い通りにならないとすぐにそむく、ということが分かります。この70年間、彼らはずっとそうして来ました。そして、彼らは何も得ていないのです。そしてご覧の通り、彼らが拒絶するたびに、彼らはさらにどんどん、どんどん…失っていくのです。

聖書のどこにも、パレスチナとの平和など見当たりません。

聖書のどこにも、イスラエルの地に二か国が存在するなど見られません。

聖書のどこにも、包括的な平和など見られません。

次に聖書の中に見られるのは、大戦争の後に登場する、反キリストによって取り仕切られる偽の平和です。ですから、恐らくエルサレムの周辺で、恐らく別の危機が起こり、エゼキエル戦争が始まるでしょう。そして一旦ムスリムが恥をかかされ、イスラエルの山の上で屈辱を受けた時、エゼキエルによればその時初めて平和が達成可能になるのです。しかしそれさえも、偽の世界指導者によってもたらされる、果てしなく偽の平和です。そして彼も、やがて正体を現し、ユダヤ神殿で自分を神として拝むようにと命じます。物凄く興味深いですね。

神殿の丘の神殿の事実だけでも、パレスチナには負けの道しかないことを告げています。彼らはいく先日、認識を失い、イスラエルが勝ち取りました。彼らは、神殿の丘も失いますよ。考えてみてください。もし、イスラムが強く、パレスチナが強くて、この地域全体で重要な要因があったなら、どうして神殿建設が可能になるでしょう。これは偽物で、いずれ彼らの目の前で爆発します。それをもたらすのが、エゼキエル戦争です。以上が基本的に今週起こった事です。

すごい事が起こりました。ご覧の通り、トルコとの別離があり、現在エルサレムは世界の注目の的ですが、全ムスリムの目は、自分たちの問題を置き去りにして、イスラエルに向いています。ロシアが、シリアの地主であることは明らかです。だから彼らは現在、いくらかの軍を撤退させることができるのです。

自分たちが地主であり、所有者、支配者であることを、彼らも分かっていますから。先ほどお見せした動画で、それが証明されたのではないのでしょうか。今は、物凄い時代です。物凄い時代ですよ。これら全てを目にして言えるのは、私たちには素晴らしい約束があるというだけでなく、今、外でハヌカを祝い、神の真実さを祝っているユダヤ人たちのように、私たちも、世の光として、そして素晴らしい約束が与えられている者として、我々のハヌカを祝うべきです。主が戻って来られ、私たちを連れて行ってくださるのです。

それから、もう一つ皆さんに思い出してほしいのは、イエスに関する事です。彼が初めエルサレムに入られた時、彼は馬に乗って来られませんでした。彼はロバに乗って来られました。彼は、口から剣を出して来られませんでした。そうではなく、へりくだって来られたのです。そして、エルサレムをご覧になり、泣かれたのです。預言者イザヤは、彼の事を「悲しみの人」と呼び、彼は悲しみを知っていました（イザヤ書 53:3 参照）。そして、イエスはどのようにしてそれほど悲しんでおられたのかを深く掘り下げていくと、人の罪があまりにも酷く、サタンが制御を失っているという事実、人々がどれほど欺かれているかを見られたのだと分かります。皆さんにお伝えしたいのは、私は、私たちの全員が主の喜びを持って喜べと命じられているなら、私たちの心は、迷い出た世のために痛むはずだと思うのです。迷い出た羊のために、私たちの心は痛むべきだと思うのです。イエスは、最大の喜びについて語られた時、一匹の羊が迷い出ると、99匹を残して探しに行き、そして見つかった時には、その失われた一匹のために、そこにいた99匹の事以上に喜ぶと言われました。わたしが言いたいのは、もちろん彼は私たちの事を喜んでくださっているでしょう。彼は、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせず十字架を忍ばれた、と聖書に書かれています（ヘブル 12:2 参照）。しかし、思い出してください。盲目になっている世のために、キリストの心は引き裂かれていました。エルサレムが、彼の訪れを逃してしまったという事実、宗教が答えだと思うほどに、世があまりにも欺かれている事実、ただ宗教的に見せかけていれば、全てが上手く行くと皆が考えている事実。いちじくの木を覚えていますか？あのいちじくの木は、外側は見事なのに、内側に実がないことの描写です。私から皆さんにお聞きしたいのは、次のことです。

- ① あなたには実がありますか？それとも、ただの宗教的な人間ですか？
- ② あなたを悲しませるものとは、何ですか？あなたは何に悲しみますか？誰かに傷つけられたからですか？一日中、ツイていなかったからですか？それとも、周りの迷い出た世に対してですか？家族が救われていないからですか？職場の人々が救われていないからですか？あなたの心を痛めているものは、何ですか？

パウロの心を痛めていたのは、ローマ書 9:1~3 に書いてあります。

- 1 私はキリストにあって真実を言い、偽りを言いません。次のことは、私の良心も、聖霊によってあかししています。
- 2 私には大きな悲しみがあり、私の心には絶えず痛みがあります。
- 3 もしできることなら、私の同胞、肉による同国人のために、この私がキリストから引き離されて、のろわれた者となることさえ願いたいのです。

(ローマ人への手紙 9:1~3)

それから、ローマ書 10 章で彼は次のように言っています。

1 …神に願い求めているのは、彼らの救われることです。

(ローマ人への手紙 10:1b)

あなたは、あなたの国のために祈っていますか？あなたは、周りの人たちのことで心を痛めていますか？私たちは、贖いが近づいていることを喜べば喜ぶほど、自分の心に問うべきです。私は、自分の周りの迷い出た世に対して、心を痛めているか？それに関して、私は何をしているか？

メッセージの最後に、いつも皆さんにお伝えしていますが、彼が私たちを迎えに来てくださるまで、私たちは従事しなければなりません。私たちは、福音を伝えなければなりません。私たちの周りの世は、迷い出ているのです。今日、エマオの村を訪れた時に、皆さんにお伝えしたのですが、多くの人が、預言者の言ったことを信じないために、信仰を捨て、真理を捨てて、自分たちのエマオに向かっていきます。しかし、キリストが道であり、真理であり、いのちである、彼が真のメシアであると彼らが一度理解すると、かれは何のためにそこにおられたのかを、一度、真に理解すると、彼らは向きを変え、エルサレムに戻ります。あなたは、あなたのエマオにいますか？それとも、あなたはあなたのエルサレムにいますか？あなたは、真理から逃げていますか？それとも、戻る途中ですか？また、新しい週を迎えるにあたって、考えてみてください。

皆さん全員にお伝えします。2200 年前、イスラエルはアンティオコス・エピファネスによって絶滅寸前でした。しかし、私たちは生き残りました。それはただ、神が真実であられるからです。同じように、彼は私たち全員に対して、私たち全員にくださった全ての約束に対して、真実でいてくださいます。すぐに、実に間もなく、私たちは王にお会いするのです。お聴きくださりありがとうございます。繰り返しますが、Behold Israel をフォローしてください。Instagram は beholdisrael、フェイスブックは Behold Israel、もう一つのフェイスブックは Amir Tsarfati、ユーチューブは、もうすぐ登録者数が 63,000 人に達します。来年中旬には 10 万人の登録を目指しています。そして、世界中にメッセージが届くようにご協力ください。来週、中国語とスペイン語のユーチューブチャンネルが始まります。私のメッセージが、少しずつ、字幕付きでアップロードされる予定です。とてもワクワクしています。全て、皆さんのご支援と惜しみないご協力のおかげです。そのために、私たちは世界中にメッセージを押し出すことが出来ています。

では、皆さんの上に、アロンの祝福をお祈りして、このメッセージを終わりたいと思います。祈りましょう。

ヴェイシェメレハー

アドナーイ

イエヴァーレフハー

וְיִשְׁמְרֶךָ

יְהוָה

יְבָרְכְךָ

..(主が)あなたを守られますように

主が

あなたを祝福し

ヴィーフネツカー

エーレーハー

パーナーヴ

アドナーイ

ヤーエール

וְיִתְנֶךָ

אֵלֶיךָ

פְּנֵי

יְהוָה

יָאֵר

..(主が)あなたを恵まれますように

あなたに(向けて) 御顔を

主が

照らし

シャーローム

レハー

ヴェヤーセーム

エーレーハー

パーナーヴ

アドナーイ

イッサー

שְׁלוֹם

לְךָ

וְיִשֶּׁם

אֵלֶיךָ

פְּנֵי

יְהוָה

יִשָּׂא

平安を

あなたに (主が)賜るように

あなたに(向けて) 御顔を

主が

上げて

(引用：牧師の書齋 <http://meigata-bokushin.secret.jp/>)

- 24 主があなたを祝福し、あなたを守られますように。
- 25 主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。
- 26 主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。

(民数記 6:24~26)

ありがとうございます。God bless you!

気をつけて、信仰を保って、忍耐強く、競争を走りぬけて行きましょう。

シャローム。エルサレムより、God bless you! さようなら。